

心臓病の周

53

心臓病センター
 糖尿病科
 清水 一紀



第2世代CGMも既に開発されています。残念ながら、この機器によるシステムは、理論上ではわが国での法則上の問題がありませんが、使用することができません。

糖尿病は自覚症状の乏しい疾患で、多くの隠れ糖尿病患者もいるといわれており、血糖値が気になる方は多いと思います。

血糖値は、正常人ではおおむね100mg/dl前後に調整されていますが、糖尿病ではインスリン作用の低下に伴って血糖調整に狂いが生じ、食べ残や体の細胞に取り込まず、血液に糖が残留してしまいます。この血液に滞留

した血糖はやがて血管障害を起すことになり、糖尿病は臓病とも深い関係にあります。

血糖値は、食事運動、ストレス、炎症、さまざまなホルモンにより絶えず変動しています。そのため、インスリン治療

では血糖の動きを見ながら治療することが必要となります。わが国でも1986年から、簡易血糖測定器(通称SMBG)による同様の血糖測定が保

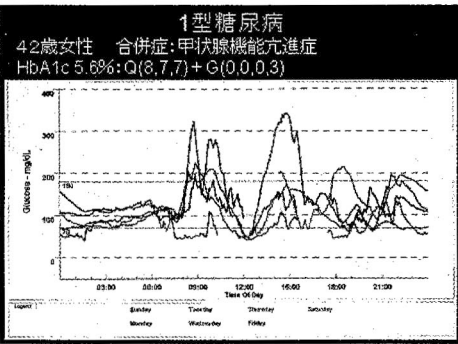
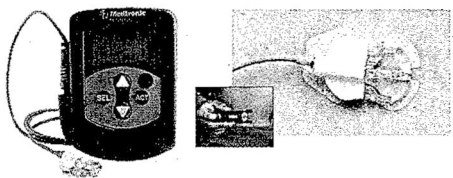
間液を利用した連続ドゥ糖モニタリングシステム(CGMS)が登場しました。血液のグルコース濃度と血糖値はほぼ同様であることから、約3日間連続して血糖の動きを知ることで、

通常腹部皮下にセンサーを差し込み、図1の1日4回以上SMBGを行いながら、装着した3日間の食事や行動をメモしていただきます。例えばおききにドゥ糖濃度を測定するため、24時間288回のデータが得られます。3日間で864回のデータが得られたことになり、こういった調整を自動的に行うのです。今はまだ実験段階ですが、従来の治療に比べてクロールプ法では血糖値が改善したと報告されています。

24時間血糖値を測定

行動記録も解析し治療に

【図1】CGMシステム (左が本体、右がソフセンサーを装着したところ)



【図2】実際の連続ドゥ糖モニタグラフ

1型糖尿病
 42歳女性 合併症: 甲状腺機能亢進症
 HbA1c 5.6%; Q(8.7,7)+G(0.0,0.3)

OS1もわが国において一部地域でしか行われていませんが、私が導入したケースでは、低血糖がなくなり旅行に行けるようになったり、大変喜ばれている方もおられます。当院ではこのような糖尿病の先進治療も積極的に取り入れておりますので、興味のある方はぜひご連絡をお待ちしています。

次回7月11日掲載します